

WIN-Japan 設立5周年記念事業

エネルギーの原点を観る —「母と子の天体観測 & 女性交流会」を開催

中国電力(株) 兼重一代

1993年に設立された原子力に携わる女性の世界組織「WIN」(Women In Nuclear)の日本組織として、2000年に「WIN-Japan」は設立された。女性の視点と言葉で一般の方々に分かりやすい広報活動を行い、原子力や放射線についての正しい理解を国内に広めていくことを目的に「WIN-Japan」(以下 WIN-J)は誕生したのである。

現在 WIN-Global (WIN の世界組織)の会長も務める WIN-J 会長の小川順子さん(日本原子力発電(株))をはじめ、理事と会員が協力しあってさまざまな活動を行ってきた。2004年には、WIN-Global(以下 WIN-G)年次大会を日本で開催。海外から多くの WIN 会員が集い、きめ細かい会議運営で WIN-J に対する高い評価をいただいた。こうした海外のメンバーとの交流や情報交換をはじめ、日本国内でもメールによるタイムリーな意見交換などでネットワークを大いに活用している。

また、「WIN-J 女性交流会 in 東海村」から始まり、「WIN-J 女性交流会 in 唐津」などの女性交流会を各地で開催してきた。さらに毎年4月には WIN-J 年次大会を開催し、各会員がそれぞれ取り組んできた活動の

- ・「WIN-Global」(ウィン-グローバル): 世界60カ国、会員約2,000名
- ・「WIN-Japan」(ウィン-ジャパン): 会員約200名



テーブルトークでは率直な質問、意見が出た

報告やワークショップなどを行い、お互いの資質向上もはかっている。

こうした地道な活動を積み重ね、昨年 WIN-J は設立5年目を迎えた。

5周年のターゲットは次世代層

2005年の年次大会で、「節目として、設立5周年記念行事を開催しよう!」との声があがり、いろいろな企画案の中から、これまでもエネルギー教育の重要性から取り沙汰されていた次世代層への理解活動の取り組みとして、親子を対象とした「母と子の天体観測 & 女性交流会」を開催する運びとなった。天体観測実施については、茨城県常陸大宮市のご後援をいただき、花立山天文台「美スターボランティアの会」が協力していただくことになった。

1月28日(土)~29日(日)の2日間の日程で、小学校高学年から中学生のお子さんとお母さんを対象に募集し、25組(50名)の参加があった。

1日目は、東京、水戸駅から茨城県常陸大宮市・美和工芸ふれあいセンターに向けて出発、午後は同センターで、子供たちは夜の天体観測に備えて望遠鏡作り、お母さん方は班別にエネルギーや原子力についてのテーブルトーク(意見交換会)と親子別々の会場に分かれて実施し、夜は花立自然公園で天体観測を行った。2日目は、日本原子力発電(株)東海原子力館見学で電気や原子力を勉強した。

■テーブルトーク

美和工芸ふれあいセンターで、美スターボランティアのお兄さんたちの指導で、子供たちが別室で望遠鏡作りをしている間、お母さんと WIN-J 会員によるテーブルトークが終始なごやかに進められた。

「すみません。実は、天体観測につられて…」ほとんどの方が参加した動機についてこう語られた。アンケートでも「親子で参加できる。子供の教育に良い機会であるから」がほとんどだった。今回のようなエネルギー関係のイベント参加は初めてという方も約9割を占めた。

しかし、皆、説明に真剣に耳を傾け、自分の視点で日頃疑問に感じておられることを率直に質問されていた。「原子力もただ危ない、怖いと思っていたが重要性を知ることができて参加して良かった」、「放射能や原子力発電所への間違った考えを改め

ることができた」とのご意見もいただいた。今回、一番印象に残ったのは、「これまで原子力やエネルギーについて知る機会もなかったし、子供と離れてこういった時間を持つのは久しぶり。親子で参加できる企画でないとなかなかね…。たまにはこういう時間をもてるのは良い」。そう語られたお母さんの言葉である。確かに子供を持つ若い母親世代は、子供と離れて自分だけの時間を持っていない実情がある。そして、多くの方は原子力というものを知る機会がない。そういった意味では、できるだけ多くの方に、たくさんの機会を作って、原子力やエネルギーというものにふれるチャンスを作ってあげられたら…！と思う。

「今回参加されて関心度は変わりましたか？」の質問に対しては、より「関心を持てるようになった」、「少しは…」が合わせて96%。「関心度は変わらないが理解が深まった」とのコメントがあり、全員の方がこの参加で関心を深めていただけたことになる。

参加のきっかけは「親子のコミュニケーション」とはいえ、私たちが期待した以上のものを得ていただけた。

■花立山天文台での天体観測

シン——「ザッ！ザッ！」静寂を破り、バスから降り立った私たちは、真っ暗な夜空に瞬く冬のダイヤモンドに思わず息を飲んだ。

ひときわ輝く一等星のまわりに散りばめられた宝石のように、あふれんばかりの小さな星たちがキラキラ…瞬いている。手を伸ばせば届きそうなくらい近く感じる。

「きれい…。白い息とともに思わず手が出ていた…」

冬は1年中でもっとも星空がきれいな季節。星が見えれば最高の企画



星の美しさに息を飲んだ天体観測会

である。当日は、雲量“0”(空の雲の量)の晴天という、“大成功”といって過言ではない最高の好条件に恵まれた。

「ようこそ！ 花立山天文台へ！」美スターのボランティアスタッフの方々の温かい出迎え。

「ロッジは氷点下になるかもしれない」と聞いていた私たちは、厚い靴下にマフラー、帽子、ホッカイロとエスキモー張りの装いで防寒を完璧にして臨んだものの、いざ、天体観測が始まると、いつしか寒さも、呼吸をするのも忘れてしまうくらい集中して星探しに夢中になっていた。オリオン座の赤く輝く1等星ベテルギウスと白く輝くシリウス。左の方へ大きな大三角形を作ると明るく光るこいぬ座プロキオン。これが冬の大きな大三角形。南十字星。ウィンター W…説明に耳を傾けながら、星の位置を確認し星座を見つける楽しさに時を忘れた。特に土星の“環”がくっきりと見える特大の天体望遠鏡には列ができ、ひときわ大きな歓声が上がっていた。子供たちはもちろん、お母さん方や私たちスタッフも、この限られた時間を満喫し、思わず童心に戻って楽しんでた。特に子供たちにとっては、手作りの望遠鏡で星を見ることができた喜びは一生忘れない思い出となったことだろう。

そして、きっと気づいただろう。真っ暗な中、冷たくなった私たちの



電気、原子力について学んだ見学会

身体を温めてくれた束の間の休息場(ロッジ)から洩れる明かりに、ホッと安堵感を覚えることを…。私たちの生活はエネルギーが支えてくれている。壮大な宇宙にエネルギーの原点があることへと結びつけて考えてほしいという、この企画に込められたもう一つの思いを、肌で感じていただけたと思う。

新しい門を開いて

今回の参加者全員が、「参加してよかった」、「また参加したい」と感じている。

これをさらに次につなげて、「1回きりで終わらせない！」参加者へのフォローアップが大切との思いから、繰り返し参加者の生の声を聞き、その疑問に、不安に、誠心誠意お答えする。それが真のご理解につながる。

今回の5周年記念行事で「次世代層や若い母親世代に知って欲しい」、その新しい門が開けた。

これをさらに私たちが目指すところのフェース to フェース、ハート to ハートの活動で広げていきたいと思う。 ◆



[かねしげ・かずよ 山口支社 総務広報]